

Hear the Mountains

2

YAMAOSM



やまをきく



PAGE 17では、糸山さんが佐賀の山奥で制作した過去の楽曲についてもご紹介しています。

やまをきく



Koji Itoyama

作曲家
糸山 晃司さん

1991年生まれ、九州在住。ピアノやシンセサイザーを中心に、室内楽、電子音、フィールドレコーディングなどを駆使した作品を制作する作曲家。これまで、広島県PR「カンバイ!広島県」のCM音楽、映画『大いなる不在』のサウンドトラックをはじめ、ONE FUKUOKA BLDG.やコスメブランド「THREE」のサウンドインストレーションなど、建築空間のBGMやサウンドデザインも数多く制作。佐賀県で暮らした経験もあり、YAMAOSMプロジェクトではプロジェクトメンバーの楽曲制作も手がける。



道路を走る車や工事の音、お店やビルのアナウンス、イヤホンの音楽や電話の声。街にいる私たちは、音の雑踏のなかをくり抜けながら生活しています。突然、山や里山へ行くと、静かな雰囲気にも物足りなさを覚えるかもしれません。でも、時間に入ったあとに目が慣れて周りのものがぼんやりと見えてくるように、しばらくすると、だんだんいろいろな音が聞こえてくるのです。音が無いのではなく、こちらが閉じていたのだな。山の音はそう気づかせてくれます。

リード文・構成=竹尾 真由美、文=糸山晃司

YAMAOSM videos



コンセプトアニメーション

佐賀から着想を得た手書きのモチーフをコマ撮りのアニメーションにしました。佐賀の、優しく、いきいきとした自然の鮮やかさを、1冊の絵本のように紹介しています。

映像=仁田原 力
イラスト=宮地 明日香
音楽=糸山 晃司



イメージ映像

低山が多く、川から平野、海へとゆるやかにつながっている佐賀の山の身近さや、大人だけでも、子ども連れでも楽しめる空気感。そこで過ごす時間の豊かさを伝えています。

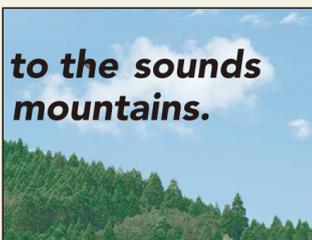
映像=仁田原 力
音楽=糸山 晃司



FIELD RECORDING

YAMAOSMプロジェクトでは、佐賀の山の魅力を伝えるために、このタブロイドだけではなく、コンセプトアニメーションとイメージ映像の2本を制作しています。音楽を手がけてくれたのは、音楽家の糸山さん。「実際に訪れていなくても、その場にいるような感覚を抱くようなものを」と、佐賀県の山でフィールドレコーディングを行い、そこで見つけた音を“採取”、楽曲に溶けこませています。実際にどのような音が取り入れられたのでしょうか？いくつかの印象的な音源を、糸山さんのコメントとともにご紹介します。イヤホンやヘッドホンで聞くと、さらに没入感がありおすすめです。ぜひ動画の中でも探してみてください。

Listen to the sounds of the mountains.



「鳥の声」

Location/脊振山

山での録音で、最もポピュラーかつ美しいのが鳥の声です。この日は天気もよく、たくさんの鳴き声に囲まれました。遠近感も感じられるすばらしい音源です。

聴いてみる 1:00



「風で揺れる木々」

Location/脊振山

標高の高い場所で録音した風の音。風が直接当たりにくい場所にレコーダーを置く工夫が必要ですが、うまくいけばこのように心地のいい音が録れます。

聴いてみる 1:00



「川のせせらぎ」

Location/脊振山

山の小川にレコーダーを近づけて録音しました。川を構成する水の粒の音がきれいに捉えられており、まるで目の前に川があるような感覚を覚えます。

聴いてみる 1:00



「急流」

Location/脊振山

速い流れのある川をやや遠いところから録音しました。水の流れがホワイトノイズのようになり、思考を奪われる感覚になります。ポーッとできる音です。

聴いてみる 1:00



「焚き火」

Location/基山

焚き火にギリギリまでレコーダーを近づけて録音した音です。炎は視覚にも聴覚にも安らぎを与えてくれます。ほかに余計な音のない静寂が美しいですね。

聴いてみる 1:00



「山を歩く足音」

Location/脊振山

音楽のリズムパートに使うために録音しました。実際に登山をすると、自分や他人が発する足音がリズムを奏でているように聞こえますよね。

聴いてみる 1:00



INTERVIEW

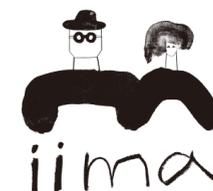
iima Maki Nagayama Takayuki Ishii

音楽ユニット
iimaが、

歌で届けたい山のこと

福岡県を拠点に、九州や全国各地で活動する、シンガーソングライターの永山マキさんと、ギタリストのイシイタカユキさんによる音楽ユニットiima（イーマ）。「日常がちよっと違った景色に見えてくる」ような言葉と音を追求める2人が、近年とりわけ興味をもち、音楽やライブを通じて伝えてるのが「お山」のこと。なぜ山なのでしょう、山との関わりや影響についてお聞きしました。

取材・文=竹尾 真由美 写真=山口 亜希子



永山マキ イシイタカユキ

永山マキ (vo) & イシイタカユキ (g) による「日常がちよっと違った景色に見えてくる」ような言葉と音を追求める音楽ユニット。ソロ活動やバンド「モダン今夜」の活動を経て2016年にiimaを結成、2018年2月にデビューアルバム『最終回のうた』、2021年8月には2ndアルバム『おーいおーい』をリリース。数多くの企業CM曲や映画音楽を手がける。ラジオのようなLIVE「iimaな時間」や山と人の繋がりを再確認するイベント「山の声が開きたくて」などを企画し東京と福岡を拠点に全国で活動中。

Instagram: 永山マキ @nagayamamaki イシイタカユキ @ishii_iima



Maki Nagayama

お山が自分と向き合う方法を教えてくれた

—お二人ともご出身の東京で長く活動されていました。九州へ移住して、山と深く関わりをもつようになって、なにか変化がありましたか。

永山: 私は東京の文京区で生まれ育ち、結婚後はいわゆる「谷根千エリア」に住んでいました。3.11のあと、子育てへの不安や友人の後押しもあって、福岡へ移住することにしました。こちらに来たことで、自然が身近になり、今までにない視点が生まれたような気がします。

イシイ: マキちゃんの書く歌詞もずいぶん変わったよね。東京にいたときは、「山」という言葉は出てこなかったでしょう。

永山: そうだね。うちからお山は全然見えないし、遠い存在だった。緑が多い皇居の周りを自転車で一周して、心を落ち着かせることはあったけど……。移住当時は、いろいろな不安に押しつぶされそうな気持ちでした。最初にお山に登ったときは、少し助けを求めるような気持ちだったんです。そのときの私には何か明確な答えは見つけられなかったけど、母、妻、歌い手とかそういう肩書きや立場から自分をいったん置いて、ただただこの命でお山に登ることで、見えてくるものがありました。自分と向き合う方法をお山が教えてくれたように思います。

イシイ: ちょうど、山が必要なタイミングだったんじゃないかな。

永山: そう。私みたいにお山が身近にない環境の人でも、大人になってからお山に出会い、その価値に気づく人もいると思う。今では、窓からお山が見える生活を送る中で、心にぽっかり空いていた穴が少しずつ埋まっていくような不思議な感覚を味わっています。

—移住してから山へ興味をもつようになったのですか。

永山: 登山とか自然散策は全然したことがなかったのですが、なぜかものごころついたころから絶対行きたいお山がありました。それは宮崎県霧島連山の主峰・高千穂峰。山頂に突き立てられているという「天の逆鉾(あまのさかほこ)」を見るのが夢だったので。そのことをiimaのアルバムのアートワークを手がけてくれているイラストレーターで、友人のムツロマサコに話したら、一緒に登ってくれというので、ちょうど子どもにも手がからなくなってきたタイミングだったのもあり、「よし、いまだ!」と思って実現しました。これが移住後初めての登山でした。

イシイ: そこでの体験が衝撃的だったんだよね。

永山: そう。高千穂というと高千穂峽を思い浮かべるかもしれませんが、鹿児島と宮崎にまたがっている高千穂峰もすばらしいんですよ。山頂付近には霧島神宮元宮の鳥居があって、そこで参拝のときパンパンって手をたたいたら、その日は風が強いはずだったのに風がびたっと

止んで、時空を超えたようにあたりがしんと静寂に包まれました。ムツロマサコも同じことを感じていて、「あれはなんだったんだろう」って、いまでも話題になるくらい神秘的な思い出です。

山伏ふーみんさんとの出会い

—永山さんは、修験道や山岳信仰にも興味があるとお聞きました。

永山: 山登りの専門誌「季刊のぼろ」でお山に登って歌を作るという企画があって、くじゅうに登ったのですが、同行していただいた編集の方から、「ここはかつて修験の山だったんですよ」とお聞きしたんです。そのときに初めて「修験道」という言葉を知り、山伏に興味をもつようになりました。

それから山形の山伏、坂本大三郎さんの書籍を読んだりして山伏や山岳信仰にはまり「私も山伏になりたい!」ってイシイさんに言っていましたね。

イシイ: 「そんなに甘くはないよ、音楽の方が向いてるよ」と説得する日々でしたね(笑)。

永山: それからいろいろと調べるようになり、たまたまZoomで山伏の片山恵遍(通称:ふーみん)さんのお話を聞ける機会があって。私ももお若いのに、中身は達観したおばあさまのよう。一見難しそうな話をとてもわかりやすくおもしろく伝えられていて、なによりそのお人柄が素敵で、すっかり魅了されてしまいました。感動しました! というメッセージとともに「のぼろ」という私たちの曲のリンクをお送りしたら、すごく喜んでくださって、それ以来、何度か一緒に九州のお山を登りました。



2023年5月にふーみんさんと訪れた大分・国東にある大不動岩屋の景色。庄巻の景色を見て感動したり、5mmくらいの芋虫が5m以上の糸をつたって降りて来るのを見て感動したり。生き物ってすごいですね。(永山)

—そこで、いろいろなお話をされたんですね。

永山: 峰入(みねい)りに同行させてもらって、一緒に修験の道を歩かせてもらったり、動行(ごんぎょう・お経を唱え祈りを捧げること)をされているときは、ともに祈らせてもらったり、どの岩場に足を着いたらいかとか、植物のことなどを教えてもらったりしました。

修験道では、お山のあらゆるものを神仏の化身と考えます。草・木・石・土・生き物・風・光・すべてのものからの



Photo by Tomokazu Murakami

2021年5月に「季刊のぼろ」の企画でくじゅうに登ったときの様子。坊ガツルまでの道はこのように生き生きとした植物がたくさん。坊ガツルからはお山が岩場が増え、また違った景色が見えました。(永山)



Photo by Kazuhiro Fuchikami

YAMAOSMプロジェクトのイベント「YAMAOSM祭”やまのぼ”」(2024年11月23日・高取公園)でのライブの様子。

山や自然を感じられる食べ物やお茶、音楽ライブ、さまざまなワークショップも開催されて、野草茶を選んだり、写真を撮影したり、子どもたちが楽しそうに椅子を作っている姿が印象的でした。くじゅうや吉野のお山と一緒に登った山仲間との再会や、法螺貝を吹く青年との出会いもありました。山を愛する人が集まったとても心地よいイベントでした。また開催してほしい! あわよくば、またiimaを呼んでほしい!(永山)



2024年9月15日に奈良県吉野町「くすの杜」で開催されたふーみんさんとのイベント「おーいお山in吉野-お山のおはなし&iima MUSIC LIVE」。会場は野外で、山を感じられる開放的な雰囲気。

I've come to hear the voice of the mountains.

iima LYRICS

「のぼろ」

作詞・作曲:永山マキ
Vocal:永山マキ/Guitar:イシイタカユキ

山の声がかきたくて わたしはここに来たのです
なるべく荷物は軽く軽く 肩書きも置いていこう

山の世界はまるで あの世とこの世の狭間のよう
わたしは今 身軽になった 魂の乗り物よ

のぼろ のぼろ あのいただきへ
あの風 あの枝 見守る道しるべ

どの岩を踏みしめればいいの
どの幹をつかんだらいいの
選んで 選んで 選び続けて 今わたしは登っている

のぼろ のぼろ あのいただきへ
あの太陽 あの雲 見守る道しるべ

ああ すぐそこに 見たことのない景色が
ああ 登らねば 知らなかった

山の声がかきたくて わたしはここに来たのですが
聞こえてきたのは この鼓動とわたしの声だった

山よ 大地よ この世界よ
わたしは何故に登るのでしょう

時には 誰かに道を尋ね 時には 支えながら

のぼろ のぼろ あのいただきへ
あなたが わたしが見守る 道しるべ

のぼろ のぼろ あのいただきへ
あなたも わたしもいつかは お空の上



2nd Album「おーいおーい」

iimaのお山の歌

「のぼろ」以外にも、iimaの曲には、山からインスピレーションを受けた楽曲が多くあります。例えば、「おーいおーい」は、やまびこをイメージして作られた曲です。「自分と他者の違いや距離を、遠くに向かって「おーい」と投げかけながら、諦めずに、理解しようとしたり、その距離を縮めたりしてこうという想いを表現した曲です」(イシイ)。アルバムやMVのアートワークは、イラストレーターのムツロマサコが手がけ、森を想起させるイメージになっています。

教えを五感で感じ取ります。ふーみんさんは、頂上を目指すことを目的とせず、お山をととても大切に思っているので、「山頂は、お山の頭のとっぺんだから」って絶対に踏まないんです。

イシイ: 登山で使うピッケルとか、山を傷つけるような道具は使わないそうです。ふーみんさんが山をととても大切に思っているのを感じて、僕らもそれに倣って「お山」と言うようになりましたね。

—イシイさんには、「お山」との出会いがありますか。

イシイ: 僕も東京出身ですが、三重やアメリカの田舎町にも住んでいたことがあるので、マキちゃんよりは自然に触れる機会があったんですね。ですが、山は登るといふより、いつも景色の中にある存在という感じ。僕はマキちゃんほど山岳信仰に興味津々というわけではないけど、そもそもiimaでは、マキちゃんの想いから曲が生まれるという土台があるので、僕は少し引いて、別の角度から様子を見ている、というのが良いバランスかなと思っています。マキちゃんが伝えたい想いを尊重しながら、じゃあiimaの音楽としてはどうしてこうかになって。

永山: 私を常に見守ってくれる、お山のような存在です(笑)。

山の声がかきたくて わたしはここに来たのです

—とくに山への思いが込められた曲はありますか。

イシイ: 「のぼろ」ですね。これはストレートに山を想う気持ちを歌詞にした曲です。僕たちが山に興味があることを発信していたら、「季刊のぼろ Vol.34 (2021・秋)」の企画で、曲を作ることを提案してくださって。2021年5月に編集部の方々とかくじゅう連山へ行き、そこで感じたことを楽曲にし、10月にライブで初お披露目しました。2025年2月に正式にリリースしました。

永山: お山で見た風景、そこでの出会い、どの体験もすばらしかった。10月のお披露目ライブは、坊ガツルにある「法華院温泉山荘」で行ったのですが、そこはかつて法華院白水寺という修験道場だった場所なんです。お世話になった方々への感謝とお山に奉納する想いで歌いました。

—近年は、山をテーマにしたイベントなども積極的に開催されていますね。

永山: ふーみんさんと一緒にお山で過ごすうちに、このすてきな時間をもっとたくさんの人と共有したいと思うようになって、2024年4月に福岡県那珂川市の游仙庵で「お山のおはなし〜山岳信仰・山伏とは〜」というおはなし&音楽イベントを開催しました。それから、彼女が得度(とくど・僧侶になること、出家すること)された奈良の吉野にある修験道の総本山である金峯山寺にも行きたい、という強い思いがあって、9月には奈良でもお山のおはなし会&LIVEを開催しました。



Takayuki Ishii

—わずか1年の間にすごい熱量ですね! 今年2月にも福岡で開催されていました。

永山: いろんなところでお山の話をしていると、同じように山に興味のある方とのつながりも生まれ、そんな中でYAMAP代表の春山さんとの出会いも生まれました。それで、ふーみんさんと春山さんと一緒に何かできたら、とわくわくしてイベントを企画したんです。これまでとはまた違った、山の魅力の伝え方もできるかもしれないって。おかげさまで大好評で、春山さんや会場のみなさんとも一緒に歌ったり、とても良い雰囲気でも、今も余韻が残っています。

※登山アウトドア向けWebサービス・スマートフォンプリア「YAMAP」の開発・運営などをとする福岡市の企業

山はみんなを愛してくれている

—iimaさんはこれから音楽やライブをきっかけに、山のどういふことを伝えていきたいと考えていますか。

永山: お山はみんなを愛してくれているし、人にもお山や自然を愛する気持ちDNAレベルで刻み込まれていると思っています。お山や万物を大切に思う気持ちが、ひいては平和につながるのではないのでしょうか。

それと、お山に登る行為自体が、生きることだと感じています。どの道を行くか、険しい道を行くときは、どの杖をつかんで助けてもらうか、どこに足を運ぶかと安全なのか、日々のさまざまな選択肢の延長線上に私たちの生活がある、というのと同じですね。そういうお山の中での体験から、悩みを手放したり、自分を愛する気持ちを取り戻すこともあるってことも伝えていきたいなと思っています。

イシイ: 地球環境を良くしようとか、漠然とした遠くの大らかな話ではなくて、近くの大事なことに気づくためのきっかけがくれたらと思っています。僕らは音楽をやっているわけだから、コンサートやイベントを通じて、マキちゃんみたいに心が満たされる場所が山に見つかったり、山のことに触れたり、つながるきっかけみたいなものをつくるのができたら十分だと思っています。



Photo by Tomokazu Murakami

Photo by Tomokazu Murakami



2025年2月2日、福岡県福岡市の「WEEKS GALLERY」で開催された、「iimaを時間50回記念 special企画トーク&音楽LIVE 山の声がかきたくて」。当日のダイジェスト版を、QRコードから動画で見ることができます。

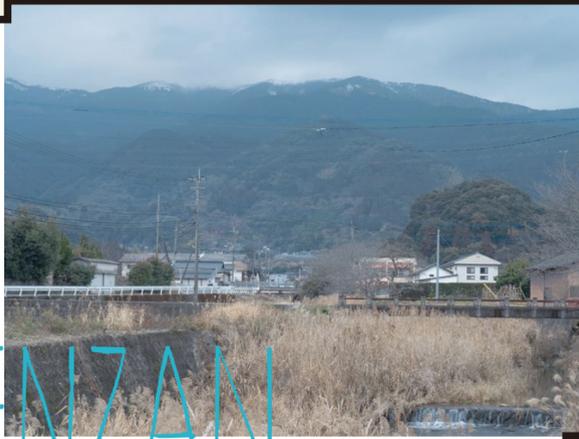
SAGA MOUNTAIN FILES

天山・金立編

天山

天山を取材で訪れたのは、1月。真冬天山には、雪が深く、美しく積もっていました。天山は佐賀県のほぼ中央に位置し、道路が山頂近くまで整備されています。9合目付近まで車で行くことができ、初心者でも安心。この日は、冬用タイヤの車で「天山宮駐車場」に集合しました。ほかにも、唐津方面からの「天川ルート」、上級者向けの「七曲峠ルート」などのルートがあります。

天山は、保湿性の高い蛇紋岩と疎水性に優れ、ろ過能力が高い花こう岩で主に構成されています。雪解け水や雨水を蓄え、ゆっくりとろ過、それが植物を育て、酒造りの仕込み水や虫が生息できる清らかな川へと姿を変えます。山道には、春にはカンアオイ、夏にはタンナトリカブト、秋にはマツムシソウなどの草花が見られるそうです。取材日は、一面の銀世界で、当日までの心配をよそに心を奪われるような景色。草花は少なかったですが、案内人の天野さんからお話を聞いて、雪解け後に芽吹くであろう草花に想いをほせることができました。



山頂が近づくと、風が強くなります。佐賀平野にどっしり構え、東西に延びる天山は、季節風の影響を受けやすいそうです。そのため、山頂付近には高い木が育たず、景色は一変。地理的条件による、植生や景色の違いがわかりやすく、興味深いです。四季ごとに異なる表情があり、さまざまな機会を訪れたい山。佐賀県で広く愛される「アイル山」ともいえる天山の魅力をぜひ気軽に感じてみてはいかがでしょうか。



取材日は雪でしたが、天気が良ければ頂上からは佐賀の美しい風景を一望できます。低山と言っても、そこは標高1,046mの世界。社大な360°のパノラマが広がり、佐賀平野や有明海、さらには、雲仙岳など長崎



天山神社上雪は頂上付近にあり、上宮ルートはここから入り。登り始めると鳥居や神池、ほころがあり、厳かな気持ちに。駐車場も広く、近くにトイレもあるので安心。



蛇紋岩は、天山で見られる特徴的な岩です。地下深くまで変質してできた岩の一種で、蛇に似た模様からこの名が付られたそうです。濡れると滑りやすいので注意を。



取材時は1月の厳冬期。普段の緑豊かで穏やかな印象とはまったく違いました。冬ならではの特別な景色が見られますが、この時期は熟練者で登ることをおすすめします。



案内人 天野 貴博さん

山梨県出身。大学卒業後、ガイドを目指し専門学校へ進学。旅行会社に就職後、佐賀県の地域おこし協力隊に就任。登山ガイドをはじめ、さまざまな形で佐賀県の豊かな自然の魅力を伝えている。(公社)日本山岳ガイド協会認定登山ガイドステーション。3月で協力隊の任期を終え、以降は個人でのガイド活動を開始。問い合わせは、Instagram@takahiro_a_1510へ、→PAGE 17の天野さんによる「山の豆知識」もチェック。

取材文=岡 優一
写真=岩城 成太郎

金立山

金立コスモス園駐車場あたりから高速道路の高架をくぐり少し歩くと、山本 常朝が説いた「葉隠」の発祥の地が見えてきます。今では、隠棲した遺構は残っていませんが、石碑が建てられ、手すりも整備されており、散歩道のように楽しめます。さらに葉隠の石碑から東に7分ほど歩くと、「徐福長寿館」が見えてきます。徐福とは、秦の始皇帝の命を受け、不老不死の霊薬を求めて日本に渡ったとされる人物。長寿館では、健康と長寿をテーマにした資料展示や徐福伝説を学ぶことができます。また、「丸山遺跡」もこの地で歴史を刻んでいます。「武士道といふは、死ぬ事と見付けたり」と一瞬に生きることを説いた葉隠と、不老不死を求めた徐福の伝説が残る金立山。「生」と「死」、相反するようでいて、どちらも人の生き方を問う物語がここにはあります。歴史のロマンを感じることができる場所です。

金立山は、大人だけでなく子どもたちも楽しませてくれる懐の深さがあります。「金立山いこいの広場」では、休日になると遊具や草スキーでファミリーが遊ぶ姿も見られます。山頂まで登って、お弁当を食べて下山しても3時間ほどの道のり。重装備ではなく、軽装でも登ることができるから登山のデビュー戦にもぴったりです。

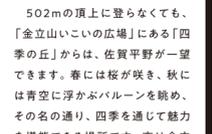
金立山は、歴史のロマンと自然の魅力が共存する山。ふらりと訪れても、じっくり歩いて、新たな発見がきっとあなたを待っています。多彩な楽しみ方をどうぞ。



久保泉丸山遺跡は、縄文時代から弥生時代の支石墓と5-6世紀の古墳群がまっすぐに存在する複合遺跡。充実した展示があり、歴史好きはもちろん、子どもの学習にもぴったり。



金立山の麓にある公園内には、大型複合遊具・ハンガロー・バーベキュー施設・草スキー場などがあります。芝生なので小さな子どもも安心。春は花見スポットになります。



502mの頂上に登らなくても、「金立山いこいの広場」にある「四季の丘」からは、佐賀平野が一望できます。春には桜が咲き、秋には青空に浮かぶバルーンを眺め、その名の通り、四季を通じて魅力を堪能できる場所です。夜は金立山の麓に広がる夜景を楽しめる穴場スポット。東屋もあり、お弁当を広げたり、腰をおろしてゆったり過ごしたりすることができます。サービスエリアから近く、ドライブがてら気軽に立ち寄るのもおすすめです。



案内人 福田 広志さん

佐賀のアウトドアシーンを牽引するアウトドア専門店「Base Camp」の専務取締役。自らも店頭立ち、来店する人の好みやスタイルに応じてさまざまなアイテムを提案するかたわら店舗運営も担う。金立山のそばで生まれ育ち、幼い頃より遊び場としての

Base Camp
人と自然のかけ橋として、山にまつわるさまざまな活動に寄り添うことを目指し、イベントなども開催している。
Instagram: @basecampaga



佐賀藩士、山本 常朝による武士の心構えや生き方などを説いた「葉隠」。「葉隠発祥の地」の石碑から石段を上ると、偉業を偲び建てられた「常朝先生産訓碑」があります。



久保泉丸山遺跡は、縄文時代から弥生時代の支石墓と5-6世紀の古墳群がまっすぐに存在する複合遺跡。充実した展示があり、歴史好きはもちろん、子どもの学習にもぴったり。



金立山の麓にある公園内には、大型複合遊具・ハンガロー・バーベキュー施設・草スキー場などがあります。芝生なので小さな子どもも安心。春は花見スポットになります。



502mの頂上に登らなくても、「金立山いこいの広場」にある「四季の丘」からは、佐賀平野が一望できます。春には桜が咲き、秋には青空に浮かぶバルーンを眺め、その名の通り、四季を通じて魅力を堪能できる場所です。夜は金立山の麓に広がる夜景を楽しめる穴場スポット。東屋もあり、お弁当を広げたり、腰をおろしてゆったり過ごしたりすることができます。サービスエリアから近く、ドライブがてら気軽に立ち寄るのもおすすめです。

天山や金立山周辺は、山と暮らしが溶けあっている場所。だからこそ、

いつもの店じゃないところ、名前は知っていても新鮮に見えたり、見慣れたものがちよっと新鮮に見えたりするから不思議です。今回はそんな、「出会い直したいスポーツ」をどうぞ。

1

道の駅天知では、佐賀・松梅地区のほし柿が人気です。30年の歴史をもち、10年前からブランド化が進むこのほし柿は、外はもっちり、中はとろりととした食感が特徴。約30軒の農家が出荷し、正月の縁起物やおやつとして多くの人気が求めます。年中楽しめるよう、ほし柿を使用したアイスクリームやソフトクリームも人気。販売している農産物や加工品は、市場仕入れをせず、地元農家のものにとこだわりの産品も魅力です。週末には約6000人が訪れ、佐賀の味を届ける拠点となっています。

住所：佐賀県佐賀市大町1-1-105
電話：0952-75-2296
時間：9:00-18:00
休：1月1-5日

2

登山の疲れも癒してくれる温泉施設。内湯・露天・岩盤浴・サウナを完備。宿泊・イベントホール・夏季にはプールも備える複合施設。地元の方から家族連れまで広く親しまれています。週末は朝風呂も利用でき、レジャーの後に気軽に立ち寄れる立地です。天山の上宮登山口からは、20分ほどの立地で、船山や八幡岳の美しい景色を眺め露天風呂でほっと一息。ユニークな暖簾のイラストは、佐賀のイラストレーター・松尾 浩一さんによるもの。

天山宮久遠山TAQUA
住所：佐賀県多良木町小倉4664-1
電話：0952-75-7770
時間：12:00-21:00(土・日・祭日 9:00-9:00営業)
休：不定休

3

田舎の魅力を活かした、くつろぎの空間。店主・林口さんが、家族とともに働ける場を求め15年前に開店。自然に囲まれた景色の中、ゆっくりと過ごせる空間を提供しています。自家製米や県産の旬の野菜を使った「ごはんプレート」は、唐揚げやクラムなど多彩な味わいが楽しめる一品。妻の弥生さんやパティシエ経験のあるスタッフがつくる季節のフルーツを使ったタルトやパフェも人気。高橋する雅貨店「ハンセ」では、現地で直接仕入れたこだわりの雑貨を販売し、ポップアップイベントも開催しています。

slow cafeのごはんプレート
住所：佐賀県多良木町久野3795-1
電話：0952-75-2077
時間：11:00-17:00
休：月・火

4

佐賀県小城市の産物料理「Oのぞり」は、明治45年創業。名水百選・清水の湧き出る清らかな水で育った鱈を使い、伝統の味を提供しています。看板メニューの鱈のあらは、密ごたえの鱈の刺身を特製の山椒入り味噌でいただきます。鱈ごきは、コク深い味噌汁で心まで温まる味わいが自慢です。米糀が豊富と言われる産物料理は、山遊びのエネルギーチャージにも最適。フリフリとした鱈刺の食感と広がるうま味を堪能できる、体にもやさしい名物を味わってください。

住所：佐賀県小城市新町2-2053
電話：0952-73-4451
時間：10:00-17:00
休：不定休
Instagram: @hinochayaadame

5

清らかな水が湧く、自然の恵み。知里山の甘露水は、昔から清らかな水として親しまれています。20数年前に地域の方が整備し、現在も自治会が管理する湧き水。天山山系の水で、安全性やおいしさを裏付け、品質検査も行われています。佐賀県内各地から多くの人が水を汲みに訪れ、こだわりのコーヒーマシーンに使う人もいます。標高100m以上に築かれた美しい景観の中にもあり、道すがら彼岸花やアザミの咲く風景も楽しめます。水場は岩場が多く狭いため、及み際は足元にご注意ください。

住所：佐賀県小城市小倉町岩立(知里山御宮寺)
電話：0952-74-3848
時間：8:00-17:00
休：月

6

300年受け継がれる、素朴な伝統の味。津川地区で昔から親しまれてきた「岸川まんじゅう」は、300年以上の歴史を持つ伝統の味。平成元年に岸川商店が商品化しました。まんじゅうの生地は、前日から発酵させ、酒粕発酵ならではのふわふわの食感。無添加だから子どもも安心です。10種類の味があるが、自家製あんこ入りとあんなしが特に人気だそうです。午前4時から製造がはじまり、売り切れることもあるため事前予約がおすすめ。地元の方や観光客もぜひご来店ください。世代を超えて愛される逸品です。

岸川商店の岸川まんじゅう
住所：佐賀県多良木町北多良木町4520-1
電話：0952-74-3848
時間：8:00-17:00
休：月

山へ行った日は、「せっかくだから寄ってみよう」と思ったり、見慣れたものがちよっと新鮮に見えたりするから不思議です。今回はそんな、「出会い直したいスポーツ」をどうぞ。



山用の道具やタウンユースできるギアはもちろん、
山や自然を大切に思う気持ちから生まれたこだわりの商品まで、
本誌取材中に編集チームが見つけた山にまつわるいいもの・いいことを紹介します。

Recommended 9 ITEMS
EDITOR'S PICKS



山で育った鶏の大切な卵をふんだんに

「たまごサンド」
標高350mの山の中、天然の地下水を飲ませ、ひよこから育てている「いとう養鶏場」の卵を使ったたまごサンド。採れたての卵でその日に一から手作りするマヨネーズ、全粒粉入りのオリジナルパン、2種類のペースト。大きめにカットされたゆで卵がごろっと入り、見た目も美しく、しっかりとした食感が楽しめる。¥520・税込 (ITO EGG FARM picnic・武雄市)
Instagram: @itoeggfarm_picnic



基山の自然のなかで育むハチミツ

「みよしの百花蜜」
かつて人が暮らした基山の山や耕作放棄地を整備し、自然の花々の蜜だけを集めた純粋ハチミツ。5月中旬～6月下旬、モチの木やハゼの木など、山の多彩な花々が咲く頃に採蜜。糖度80度以上のしっかりと甘さと、すっきりとした後味。まさに自然が生んだ唯一無二の味わい。添加物不使用の本物をどうぞ。容量220g・¥1,512・税込 (見好養蜂園・基山町)
Instagram: @miyoshiyouhouen



自分だけのオリジナルキャンプギアを

「OD缶カバー」
アウトドア好きの店主が一ひとつ制作してくれるOD (outdoorの略) 缶を守るレザー製カバー。ナチュラル、黒、赤、迷彩柄など、好みの革を選んでオーダーメイドできる。運搬時の傷防止や冬の冷たさ軽減など、機能性も抜群。使い込むほどにレザーが馴染み、味わい深く育つのも魅力だ。¥4,400→税込 (Drip hand craft・鹿島市) Instagram: @drip_handcraft



山とヤギのいる風景も一緒に

「シェ・ハイジランチ」
富士町の山あいに佇む、自家製チーズをつかった料理とフランス菓子のお店。春には自家製のヤギチーズを使い、月替りで旬の食材にこだわったランチが楽しめる。メインは、チーズを使ったドリアやお肉の料理などが登場。野菜も自家製や地元のものを使用。5種の前菜とスープ付きで、おいしいひとときを楽しめる。¥2,100・税込 (シェ・ハイジ・佐賀市富士町)
Instagram: @chez.heidi



里山の贈り物、幻のゆり粉

「ユリコ浪漫」
古くから風邪の民間療法や湯治のおもてなしとして親しまれた「ゆり粉」。富士町に自生する希少なウバユリの球根から丁寧に採取し、佐賀市婦人林業研究会が現代に蘇らせた。地元産のゆずや桜、すぎな、菊芋を加えた5種類の味を展開。とろりと飲みやすい優しい口当たりで、くす湯のように楽しめる。¥2,200・税込 (佐賀市婦人林業研究会 森の香菖蒲ご膳・佐賀市富士町)



登山の常備おやつに新加入

「YOKANGO」
エナジードリンクから着想を得て開発された羊羹。佐賀の老舗薬種商「野中鳥屋園」監修のもと、高麗人参や冬虫夏草など漢方生薬を配合。食べやすい味でありながら、体力回復や滋養強壮をサポート。スポーツや登山、忙しい日のエネルギーチャージに最適。登山取材で編集者が実際に持参し、その栄養補給の手軽さを実感。¥238・税込 (鶴屋菓子舗・佐賀市)
Instagram: @tsuruya_saga



理想の酒を追求した、これぞ東鶴

「東鶴 THE ORIGIN」
佐賀県多久市、山々に囲まれた穏やかな盆地で酒を造る東鶴酒造。主力銘柄「THE ORIGIN」は、白石町の農家と提携して育てた佐賀県産山田錦を使用している。仕込み水は、天山山系から染み出る伏流水を地下100mから汲み上げた良質な軟水。米本来の味わいをストレートに楽しめる純米酒だ。ラベルには多久の山々が映える。720ml 4合瓶・¥1,980・税込 (東鶴酒造・多久市)
Instagram: @azumatsuru_kura



登山やハイキングのお供に伝統の逸品を

「唐津手ぬぐいの本染めあづま袋」
旗のぼりを手掛け、まもなく創業150年を迎える福多染工場。本手染めのあづま袋は、たたためハンカチ、広げればバッグとして使える便利な品。染めには山の清水を使用し、発色の良さも魅力だ。工場横の店舗では、好きな柄と糸を選び、その場で仕立ててもらえる。待っている間に、近くの見返りの滝をめぐってみるのもおすすめ。¥1,320→税込 (唐津のぼり染 福多染工場・唐津市相知町)



木のぬくもりと手仕事の美しさを

「マグカップ(L)」
嬉野温泉街から少し山手に入った小さな木工店。多様な木材を使い、食器や雑貨を丁寧に製造。九州産を中心に揃え、佐賀県産の檜を使ったものもある。人気のマグカップは、なめらかな木肌と手になじむ取っ手特徴。軽量でキャンプ用に選ぶ人も多い。単一の木材を使ったものと、異なる木を組み合わせたツーントタイプがある。¥8,800・税込 (アトリエミツキ・嬉野市) Instagram: @atelier.mitsuki

(Chez Heidi)
Instagram: @chez_heidi

取材・文=岡 優一 写真=淵上 一広



「朝陽も夕陽も見れず、私は一体なにをやってるんだろう」東京で暮らしていた船津丸 有紀さんはそう考えていた。「勉強をがんばって社会に出る方法は教えてもらったけど、本当に豊かな生き方は誰も教えてくれなかった」と当時を振り返る。いつしか山の自然豊かな暮らしに憧れを抱く有紀さん。

そんな時、佐賀県三瀬村で養鶏場を営んでいた小野寺さんとの出会い、背中を押してもらった。小野寺さんはスローライフを体感しにイタリアへ行ったこともある。そこで「山でヤギを飼ってチーズを作りながら生きていきたい」と考えるようになった。自らの名前から不朽の名作アニメの暮らしに共感と運命を感じていたのも大きなきっかけのひとつ。その後、何度もイタリアやフランスに足を運び、精力的にチーズ作りの経験を積んだ。三瀬村や富士町といった山での暮らしを決意すると一気に数珠つなぎのように家が見つかり、ヤギを飼う機会も訪れ、夫・ステファンさんとも出会った。

ふたりはやがて小さなお店をオープン。店名は「シェ・ハイジ」。地元産の野菜を使い、血を彩る。自家製のヤギのチーズを使った料理は、評判を呼んだ。ともに暮らすヤギたちの繁殖期に手しほりでミルクをわけてもらっているチーズは、求めていた豊かな味がする。さらに、ステファンさんのフランス菓子で代表するカヌレも人気だ。自らの手で野菜を育て、ナッツの木を植え、養蜂にもチャレンジ中。山がくれる恵みをいかし、山を訪れる人に届ける。「草がうっそうと生い茂る風景さえも好きです。野草なども勉強して、この恵みをもっと伝えたい」と有紀さんは笑う。

山とライフ

街から離れ、山のそばで暮らすこと。そこには、豊かな自然のなかで移ろう季節を感じ、ゆっくりと時を重ねながら、本当に大切なものを見つめ直す人生があります。朝陽に染まる山々、風が運ぶ木々の香り、夜空に広がる星たち。聞こえてくるのは、そこに暮らす生き物の声や雨音、そして家族との穏やかな笑い声。山とともにある暮らしがもたらす変化や魅力や、ひとりの暮らしの視点から丁寧に紹介します。



CASE 02

イラストレーターデザイナー
山口 恵美さん
(唐津市)

佐賀市出身。自身の個展のチラシを制作したことをきっかけにデザインの道へ。結婚を機に唐津市相知町の山間部へ移住し、農業をしている夫と息子、夫の両親と暮らす。移住後もフルリモートで仕事を続けつつ、自身の作品づくりにも取り組む。

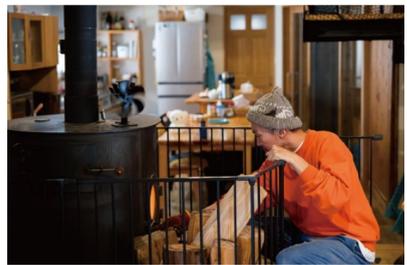


取材=岡 優一
写真=瀬上 一広

「本当に大切なものを大切にできる暮らし」

佐賀県唐津市。虹の松原や白い砂浜など、海のイメージが強いかもしれませんが、豊かな緑に囲まれている地域も多く存在するまちです。私はそんな緑豊かな山々のそばで、主人と息子、主人の両親と暮らしています。

佐賀市に生まれ育った私は、主人と出会って初めてこの地域を訪れます。最初は「なんにもないところだなあ」という印象でした。その時には築60~70年経ったこの家は、すでに素敵にリノベーションされていました。木をふんだんに使った家。1階にある薪ストーブに火が灯れば、ぬくもりのある空間がより一層温まります。聞けば、主人の祖父が暮らしていた家で、長らく空き家になっていたとか。ご両親も優しく迎えてくれて、なんとなく将来のことがイメージできたことを今でも覚えています。



1 ストーブに薪をくべるご主人

お気に入りには、大きな窓から見える山々。季節ごと、時間帯ごとにさまざまな表情を見せてくれます。目の前に広がる田んぼに水が張るころ、夜にはカエルの大合唱が聞こえます。初めのうちは、そのあまりに大きい音量にびっくりして眠れませんでした。それも今ではすっかり初夏の風物詩に。自然の音を身近に感じながら過ごしています。そのせいか、山の暮らしをはじめてから好んで聴く音楽の趣味も変わりました。以前は、高木

正勝さんやharuka nakamuraさんなど、自然音が取りこまれたピアノメロディの音楽や歌詞の無い曲をよく聴いていました。今は、ポッドキャストを聴いたり、何も聴かなかったり。自分が必要としていた音が、意図的に聴かなくても体感できる環境なんですよね。

仕事のスタイルも変わりました。佐賀市内のデザイン会社に勤務する私ですが、会社からはフルリモートワークを認めてもらっています。佐賀市内へ行くのは、月に4~5回程度。よく「街の暮らしを離れることに抵抗はなかったの?」と聞かれることがありますが、もともと自然が好きで、ショッピングモールよりも公園にいたことが多かったので、抵抗はなかったです。

それよりも自分の好みにあったショップや飲食店を目にかけて街への遠征を楽しんでいます。機会が限られているからこそ、厳選した場所や人に会いに行くのです。おかげで、本当に大切にしたい人やものがハッキリとわかってきた気がします。

一方で、家で過ごす時間が増えました。以前より、掃除をするようになったり、好きな作家さんの作品を集めたり。空間づくりが好きなので、作品や雑貨、家具を揃えることで、理想の空間を作っていくようになりました。



←作業部屋のお気に入りコーナー

家にいる時間が多くなったことによって家の中を充実させたり、ものを大切にしたりする気持ちが強くなったんです。目の届く範囲に好きなものを置いておく幸せを感じています。移り住んで新しくできた友人や知り合いもいるんですよ。ここ唐津は、唐津焼の作家さんが多く、同じものづくりをする者として、たくさんの刺激をもらっています。また、クライアントワークとは別に、自分の作品をつくる機会も増えました。変化を続ける私の人生や考え、思考からつくり出せるものを表現しようとしているところです。

そして、最も変わったのが、母親になったこと。結婚して約1年後に元気な男の子を出産しました。息子は、お祭りが好きなんです。唐津くんはもちろん、もっと地域に根ざした小さいけど見応えがある浮立や山笠などを好んでいるようです。地元の相知くん、厳木町の広瀬浮立、中島山笠祭、多久山笠などを見に行きました。息子のおかげで初めて、こんなお祭りがあったんだと知ったものもたくさんあります。

また、ブランコやすべり台などの遊具で遊ぶよりは、砂場や散歩が好きな息子。家の近くの自然が豊かな道を歩いたり、車で約30分の浜辺で砂遊びを楽しんでいます。この地域には、スサノオノミコを祀るほこらがあって、野菜やお米などの収穫したものがお供えされていることもあります。伝統や文化、歴史を静かに継承している姿を「いいな」と思っています。そんな受け継がれるものを、次は私たちがつないでいけたらな、と思っているところです。

ここにきて、街は遠くなったかもしれませんが。それでも山の不便などを含めて、自分らしい生活を模索しながら充実した日々を過ごすことができていると思います。

結婚以前から主人が持っていたレジャーシート。特別なレジャーシートではありませんが、お気に入りの場所を見つけ、シートを広げて、作ってきたおにぎりを頬張れば、あっという間に楽しいピクニックのはじまり。レジャーシートのインナーに薄いフォームが入っていて座り心地がよく、息子もよく寝転がっています。たまたで小さくまとめられるのも便利なので、いつも車に乗せています。近くの公園はもちろん、唐津市内の海まで持っていくこともあります。好きなときに、好きなところへ。景色を見ながら、その日のことを振り返りながら。まさに、私たちの暮らしの相棒ですね。



暮らしの相棒

「コールマンレジャーシート」

EVENT Report

2024年11月に、YAMAOSM祭「まちのば&やまのば」を開催しました!

“まちのば”



2024年11月9日(土)「YAMAOSM祭 まちのば」を「くすかせ広場・ARKS」で開催しました。佐賀の豊かな食を通じて山に目を向けてもらうべく、山の裏りをふんだんに使用した特別なお料理が大集合。会場内では染物体験や竹のティーパーチ立てなどのワークショップも行い、自然に触れることで山のすばらしさを感じていただきました。

“やまのば”



2024年11月23日(土)には、「YAMAOSM祭 やまのば」を開催しました。山々に囲まれた「高取山公園」にて、山のすばらしさを身体で感じる事ができる野外ミニライブや椅子製作ワークショップ、火おこし体験などを実施。ピクニック日和で穏やかな雰囲気の中、それぞれの楽しみ方で自由に山を楽しんでいただきました。

COMMUNITY

まずは、山好きな仲間たちの活動に参加してみませんか?

登山をはじめたい人におすすめ
金立水曜登山会
事務局 馬場 彰
電話：090-5286-7304



「自然×プッシュクラフト×つながり」
タネマフタ三瀬
担当 羽白 卓馬
Email:tanemahuta.mitsuse@gmail.com
HP:tanemahutamitsuse.jimdofree.com
Facebook:@tanemahuta.mitsuse

毎週水曜日に佐賀市の金立山を登る会。毎回、ボランティアで登山に慣れた方が同行し、70~120名程の参加者で賑わっている。佐賀市金立教育キャンプ場「多目的広場」に9時20分までに集合し、14時頃終了。参加料無料。休会日は、8/13~15、12/29~1/3の水曜日。参加者は、山歩きのできる服装、お茶、昼食、数物、雨具などを持参。

佐賀市三瀬地区の山で、森林を伐採せずできるだけそのままの自然を残したキャンプフィールドを提供している「タネマフタ三瀬」。子どもも体験できる親子焚火会をはじめ、プッシュクラフトBASIC講座など一般的なキャンプとはひと味違った自然体験やイベントを定期的に開催している。参加申し込みはHPまたはFacebookより。

BOOK



いつか海になる
著者:山口垂希子

ちいさな頃から海の近くで育ってきました。私にとって海は特別なものです。天草の海の風、宮崎の海の蒼。海の水は、とてつもない年月をかけて、森がくりだしたものです。今回撮影した九州脊梁地帯の山々は、九州の真ん中に位置し、この宮崎と熊本の間を中心に広がる山地です。古地図に「此の所境目知れず」とあるように、どこまでも続く森の地面の下には、それ以上に広大な森があり、何年もの月日をかけて、水が育まれていくのです。(写真展のフライヤーより)

趣味は旅と登山。登山歴10年という熊本県出身のフォトグラファー山口垂希子さんによる九州脊梁地帯の山々を撮り下ろした写真集。山口さんが山の森と出会い、流れる水や雨粒を見ながら、遠く離れた海を想って撮影した写真。見ているだけで山の風や音、においまでも感じてしまいたいそんなその世界観は圧巻。山口さんには、号の表紙をはじめYAMAOSMの誌面で佐賀の山を撮っていただきました。

MUSIC



Perspective “視座”
All tracks by Koji Itoyama

Contemplative (瞑想的)音楽だと感じた。そこに何かあるのかを聞く側が探しに行くような。もしくは、忘れていた景色を探しに行くような時間にも思える。聞くたびに新しい内観が生まれるようなそんな音楽だ。(両足院副住職 伊藤東凌 氏によるアルバムコメントより)

2021年5月29日リリース。それぞれの曲一つひとつにコンセプトがある現代アートの作品。多くの曲にノイズやフィールドレコーディングを使用し、いろんな角度からいろんな音が通り過ぎていくかのような感覚になる。主旋律はピアノだが、それぞれの人の聴く環境や個性によって「主役」と感じている音が違って聴こえるアルバム。収録曲「Biopotential」は、佐賀の山奥で制作したサウンドインスタレーション「If: Expansion of natural phenomena」の音をリミックスした曲。植物の生体電位を音に変換し、水琴窟と合奏を行わせる方法で制作。森林が演奏する音楽として聴いてほしい。

糸山晃司 / 九州出身の作曲家。PAGE 04で、糸山さんの略歴やYAMAOSMのアニメーションやイメージ映像のために制作した楽曲についてご紹介しています。併せてご覧ください。

マウンテン・イグ・フー!!



この道20年の山の案内人アウトドアが大好きなおサルさん



ひよんなことから山に興味津々 編集を駆使して山デビューする海野ちのこ

作者紹介 山本 翔

ヤマハシデザインの屋号で佐賀を拠点に活動。先日、旅先で食べた七輪焼肉に感動。自宅の庭でも七輪BBQができないが模索中。

山の豆知識

山の用語集・初級編

山の専門用語があるって知っていますか? 登山・ハイキングの参考になる用語を集めました。

- ピークハント** 登頂を目的とした登山のこと。頂上を目指すも良い、目指さなくても登山を楽しむ方法はたくさん。
- トレイル** 登山道等の未舗装路全般を指す単語。
- ラク** 斜面を石が転がり落ちる、落石のこと。落石に気づいた場合は周りの登山者に「ラク」と大声で知らせます。海外では「Rock」と言って危険を知らせます。
- お花摘み** 女性が山中にて用を足すこと。なんて可愛いんだ!
- キジ撃ち** 男性が山中にて用を足すこと。なんて勇ましいんだ!

教えてくれた人 天野 貴博さん

佐賀県地域おこし協力隊の傍ら、登山ガイドやアウトドアフィットネスインストラクターとして活動。「ピークハント以外の山の楽しみ方を伝える」をモットーに山や自然体験の魅力を広げている。(公社)日本山岳ガイド協会認定 登山ガイドステーション。



天野さんのインタビュー



YAMAOSM

佐賀は低山が多く、まちと山がゆるやかにつながっています。
海や平野と同じように、実は、山はとても身近な存在です。
その存在や役割が生活に溶け込んでいるからこそ、
私たちは山のことをあまり意識することがないのかもしれない。
YAMAOSMは、そんな佐賀の山にいきづく価値を見つめ直し、
私たちの暮らしとの接点を見つけていくプロジェクトです。



- | | | | | |
|---------------|----------------|--------------------|--------------------|-----------------|
| 1 十坊山 — 535m | 9 脊振山 — 1,055m | 17 土器山(八天山) — 430m | 25 鏡山(領巾振山) — 284m | 33 牧ノ山 — 552m |
| 2 浮岳 — 805m | 10 蛤岳 — 863m | 18 金立山 — 502m | 26 八幡岳 — 764m | 34 腰岳 — 488m |
| 3 女岳 — 748m | 11 石谷山 — 754m | 19 正現岳 — 334m | 27 聖岳 — 416m | 35 国見山 — 776m |
| 4 羽金山 — 900m | 12 九千部山 — 848m | 20 金敷城山 — 426m | 28 鬼ノ鼻山 — 435m | 36 虚空蔵山 — 609m |
| 5 雷山 — 955m | 13 基山 — 404m | 21 天山 — 1,046m | 29 黒髪山 — 516m | 37 経ヶ岳 — 1,076m |
| 6 井原山 — 982m | 14 杓子ヶ峰 — 247m | 22 作礼山 — 887m | 30 英山 — 約450m | 38 多良岳 — 996m |
| 7 金山 — 967m | 15 城山 — 494m | 23 岸岳 — 320m | 31 本城岳(前黒髪) — 483m | |
| 8 鬼ヶ鼻岩 — 817m | 16 鷹取山 — 403m | 24 大島山 — 176m | 32 青螺山 — 618m | |

参考:
内田益充・五十嵐賢・林田正道・池田浩伸・林田勝子(著)、
『分県登山ガイド40 佐賀県の山』、山と溪谷社、2017年

YAMAOSM Project Concept

「いきづく 佐賀の山」

佐賀の山は「低山」が多く、
山間部、平野、海がゆるやかにつながっています。
まちとの境界が淡く、身近な佐賀の山を
私たちは普段あまり強く意識することがありません。

そこには、川の流れ、緑の木々など豊かな自然や、里山の風景があり
いきいきと仕事をし、暮らす人たちがいます。

気軽に行けて、山から海への循環を感じることができる。
佐賀の山には、今の時代だからこそ求められる価値が
静かに、力強く、息づいています。

YAMAOSM(ヤマオズム)は
目覚めるといふ意味の方言を由来とする造語で、
「山の真価に気づく」という想いも込められています。

身近だからこそ今まで気づいていなかった
低山で親しみやすい佐賀の山に目を向けてみませんか。
そこにはたくさんの、日々を豊かにする経験が待っています。

ロゴマークについて



よく見てみると「山・O・S・M」という形に見えませんか? このプロジェクトの名前を表すとともに、山・海・ものづくり・そこで暮らす人々というように、それぞれで佐賀の特性を表現しています。

YAMAOSM(ヤマオズム)の由来

「おずむ」は、佐賀の山間地域で古くからある方言で、目覚めるといふ意味があります。佐賀の山にいきづく魅力に、多くの人に気づいてほしい、そんな思いを込めています。また、「-イズム、〇〇主義」を思わせる言葉の響きもあり、共感してくれる方々と一緒に佐賀の山文化をつくっていくというプロジェクトの長期目標も重なっています。

このタブロイドについて

佐賀の山をいろいろな角度からご紹介し、読者の五感がむくむくするような情報をお届けします。「佐賀の山?」といった思いをときほぐしながら、手に取る人たちそれぞれが、自分と山との関わりを見直したり、新たな山との関わり方を見つけられることを目指しています。

タブロイド『YAMAOSM』いかがでしたか?みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。今後の制作の励みになります。



WEB・SNS

WebサイトやInstagramでは、YAMAOSMプロジェクトのことやイベント情報などを随時発信しています。



<https://yamaosm.com>



Instagram : @yamaosm_saga

タブロイド制作チーム

編集: 竹尾 真由美、中村 美由希(XIV STUDIO) / デザイン: 伊藤 友紀・田中 淳(tuui Co., Ltd.)、北島 敬明(PERHAPS) / 取材・文: 岡 優一、竹尾 真由美、中村 美由希 / 写真: 山口 垂希子、杏岐 成太郎、淵上 一広 / 英文校正: Eve Gamble-Gillison / 印刷: 福博印刷株式会社

このタブロイドは、佐賀県によるYAMAOSMプロジェクトの一環で制作しています。

実施主体: 佐賀県 さが創生推進課 / 企画・デザイン: 田中淳・伊藤友紀(tuui Co., Ltd.) / 企画・編集: 竹尾真由美 / イベント: 機村透美 / 広報: 月田尚子 / 運営サポート: 村山陽菜(tuui Co., Ltd.)

タブロイド『YAMAOSM vol.2』

発行日: 2025年3月21日

発行元: 佐賀県 さが創生推進課

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1-1-59

TEL: 0952-25-7505・FAX: 0952-25-7423

Email: info@yamaosm.com



©2025 Saga Prefecture.